

1 研究開発課題

「峡北地域生え抜き」の科学技術人材の育成

～地域の「ハブ」としての役割を果たす中で～

2 研究開発の目的・目標

地域や小中学校との交流による地域の理数系教育の普及に加え、地域が有する科学技術の存在を学び、それらを教材化することで地域を理解し、地域の活性化を目指していく。また、これまでの SSH の実績を活かし、課題研究の深化を目指すと共に、校内外において連携層の拡大を目指し、生徒や卒業生、地域の企業や大学などとの連携を広げていく。

3 研究開発の概要

- ① 『地域への理数系教育のネットワーク拡大』
→ 地域交流の拡大に伴う連携方法の研究開発
- ② 『地域の理解と「研究マップ」の作成』
→ 課題研究などを通じて地域を知り、地域が有する科学技術の教材化研究
- ③ 『部活動におけるデータサイエンスの活用』
→ 本校の特色の1つである部活動に対して、データを収集し、チーム状況を把握した上で、試合で有利となる状況を分析
- ④ 『ICT等を利用した主体的な取組』
→ 教材の電子化による情報公開と成果物の共有化
- ⑤ 『客観的な評価方法と方略の実践』
→ クロス評価を用いて客観的な評価の実施

4 研究開発の実施規模

	1学年	2学年	3学年
文理科	全員	全員	全員
普通科	—	理系習熟クラスの希望者	2年生から継続

5 主な SSH の内容 ※詳細は HP の「SSH に関する取り組み」をご覧ください

1学年:アドバンス講座, 鹿児島科学研修(種子島・屋久島など), グループ課題研究 など

2学年:アドバンス講座, 関西科学研修(京都大学・理化学研究所など), グループ課題研究 など

3学年:企業見学, グループ課題研究 など

他にも, 全校サイエンス講演会, サイエンスレクチャー, 科学きらきら祭り, 出前講座, 韮崎高校探究交流会など